



平成29年度末 3学期終業式の講話

平成30年3月23日（金）

この3学期の終業式は、例年ですが、3年生が卒業しているため、少し寂しい式となります。

その卒業式については、来賓の方々から立派な式であったと賞賛していただきました。

このような式にできるか否か。中学三年間の中で困難なことに会い、それを仲間と一緒に乗り越えたという経験があるかどうか卒業式での姿に現れると言っても過言ではありません。

1・2年生の皆さん、4月から新しい学年になりますが、この1年間、いかに学校生活に取り組むか、その成果が卒業式として現れるのです。それが本校の良き伝統として受け継がれるのです。そう信じて、新しい学年に向けて心を新たに頑張ってほしいと思います。

さて、本年2月には平昌冬季オリンピックがありました。本校出身の^{たばらなおや}田原直哉選手がフリースタイルスキー エアリアルで日本代表として出場しました。37歳という年齢で、しかも体操から種目を変更しての出場でした。

また、スピードスケート女子500メートルで圧倒的な強さを見せ金メダルに輝いた小平奈緒選手は、レース後の会見では「金メダルは名誉ですが、どういう人生を生きていくかが大事」と、さらにインドのガンジーの言葉を引用し「『永遠に生きるかのように学べ、明日死ぬかのように生きろ』っていう言葉があるんですけど、そういう言葉のようなシーズンを送れたらいいかな」と語ってくれました。

田原選手や小平選手の姿から、目標を持つこと、そして、それに向けて全力で取り組む姿や学び続ける姿勢が周りの人々に夢と希望と勇気を与えるのだということを学ぶことができました。

この春休みは、年度を締めくくる休みでもありますが、また、新しい年度のスタートでもあります。

この春休みが次の学年のスタートを切るために、充実した休みとなるように、目標を立てて、毎日を過ごしてください。そして、新学期には、元気な姿で登校してくれることを期待し、終業式の挨拶とします。

（学校長 東方 美喜夫）